

第1回 大阪府立東淀川支援学校 学校運営協議会 議事録

○日 時 令和5年6月26日(月) 10:00~11:20

○場 所 本校図書室

内容・発言者	内 容
開会・北條教頭	<ul style="list-style-type: none"> ・令和5年度第1回大阪府立東淀川支援学校運営協議会の開会。 ・全体進行(教頭北條)の挨拶。 ・議事進行を会長が行うことの確認。 ・委員出席5名。過半数を満たし、会の成立確認。 ・傍聴者0名を確認。
委員紹介・芥川校長	<ul style="list-style-type: none"> ・校長挨拶。 ・出席委員の紹介。 ・事務局メンバーの紹介(事務長、教頭2名、首席4名、教務総務部長)
資料説明・北條教頭	<ul style="list-style-type: none"> ・学校運営協議会実施要項、傍聴規則、学校経営計画の確認。
会長の決定・芥川校長	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度に引き続き大阪成蹊大学教育学部准教授鈴木克彦様に決定。
議事・鈴木会長	<ul style="list-style-type: none"> ・鈴木会長あいさつ、議事進行。
学校経営計画説明・芥川校長	<ul style="list-style-type: none"> ・学校経営計画の中で、本年度に取り組む各内容について説明。 <ul style="list-style-type: none"> ・めざす学校像 ・中期的目標(3箇年の計画) ・本年度の取組内容及び自己評価(4つの項目)
議事・鈴木会長	<ul style="list-style-type: none"> ・学校経営計画に対する質疑応答。
質疑・柏木谷委員	<ul style="list-style-type: none"> ・インシデントの意味について知りたい。
応答・芥川校長	<ul style="list-style-type: none"> ・ヒヤリハットは「ヒヤッとした」など事故が起きる前に気づき対応できた状況、アクシデントは実際に事故が起こりケガなどの実害が出ている状況、インシデントはヒヤリハットとアクシデントの間で、実際に事故が起きたが重大な結果に至らなかった状況。ヒヤリハット等の各状況の重なり具合について明確化させていき、何かしら状況が起こった際に情報収集ができていけるように、定義について現在検討を行っている。
補足・池田首席	<ul style="list-style-type: none"> ・ハインリッヒの法則の説明。
補足・芥川校長	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度、事故報告はあがっているがヒヤリハット報告は上がってきていない状況にある。未然の事故を防いでいくためにもヒヤリハットを集めやすい環境づくりを進めていきたい。
感想・古田委員	<ul style="list-style-type: none"> ・働き方改革について定時退勤目指して取り組まれていることが素晴らしい。啓発小学校で木曜日に実施し、徐々に成果が出てきている。
質疑・古田委員	<ul style="list-style-type: none"> ・小1から高3までのキャリア教育の連続性について連携も含めてどのように進めているのか
応答・芥川校長	<ul style="list-style-type: none"> ・支援学校においてどんなことをキャリアと考えてどんなことを学習していくのが大切である。12年間を通して子どもたちの成長をどのように見守っていくのかについて、表としてキャリア教育マトリックスを作成している。その中で他学部の

<p>補足・石田首席</p>	<p>先生が他学部の教育について確認する場面が持てていない状況にある。今年度は、他学部の授業を相互に見学し、将来に向けてどのようなことを行っているかを知り、自分たちの学部でどのような支援や指導に取り組んでいくかを感じてもらえることを目的に行っていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度より生活指導部が生徒会の選挙について高等部に中学部も参加を行っていき、先輩と一緒に運営を行っていく経験を積んでいくこともキャリアの一環として行っていけるのではないかと考えている。シラバスと指導計画をリンクさせていくことについて全校の教育課程委員会や教務総務部と連携して委員会組織として取り組んでいる。コロナ禍で実施できていなかったが、今年度より運動会等の行事の会場準備について、中学部や高等部の生徒たちが協力して準備する取り組みを再開することができた。子どもたちが実感しながら取り組んでいけることが大切だと考えている。
<p>補足・鈴木会長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育は自分自身の研究課題である。他校の実践の中で、知的障がいの障がい特性として経験が足りなくなりがちである。何かをやる中で、褒められ、自己肯定感が高めていくことが大切である。他学部との交流を行うことで、同時にキャリア教育を高めていける。
<p>質疑・古田委員 応答・芥川校長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域におけるセンター的機能について知りたい。 ・大阪府の事業として支援教育地域支援事業があり、北東ブロック（東淀川支援学校・思斉支援学校、光陽支援学校の3校）に所属して、リーディングスタッフと呼ばれている教員が、地域の学校からあがってくる支援教育に関する相談を行っている。センター的機能として情報発信がある。地域への支援教育に関する公開講座として夏季休業中におこなう予定にしている。また他校に本校の教員が講師としておこなうケースもある。いろいろな取り組みを行い、センター的機能を発揮している。若い教員や経験の少ない教員に向けた「支援教育とは」の基礎的な内容について毎年発信していく必要性について感じている。
<p>質疑・寺田委員 応答・芥川校長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・校内支援としての福祉人材活用事業の内容と効果について知りたい。 ・大阪府の事業として臨床心理士・作業療法士・言語聴覚士が非常勤講師として来校し、児童生徒の様子を実際に見て、支援方法についての助言をいただいている。夏期研修等で実際に行った事例について各講師より報告していただき。全体周知する機会を設けている。受講した各先生の専門性を高めていける機会としている。臨床心理士の先生には子どもたちの揺れ動く気持ちについての助言をいただき、同じ方向を向いて指導ができるよう取り組んでいる。
<p>補足・藤本教務総務部長 質問・島田委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度の ST の事例について報告。 ・就学前から OT や PT を行っている子どもはいるので、保護者にとって支援学校が OT や ST などを外部と連携して実施していることの情報について、就学先を考える際に地域との選択の要素の1つとなる。近年、OT や ST を受ける子どもは東淀川支援学校は増えてきているのか知りたい。
<p>応答・芥川校長 補足・柏木谷委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・専門職からの助言等をいただき、自立活動等で実施しているところもある。 ・子どもが ST と OT の相談をおこなうかどうか担任から話を受け、お願いする。来週の水曜日に実施予定。初めての試みで、子どもの話が聞き取りが難しい状況があり、どのような助言をいただけるのか興味がある。

<p>質疑・島田委員</p> <p>応答・芥川校長</p> <p>質疑・鈴木会長</p> <p>応答・芥川校長</p> <p>補足・林首席</p> <p>議事・鈴木会長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・センター的機能として支援学校から地域の学校等に支援に行っていることについて話を聞く機会がある。実際何件ほど行っているのか知りたい。 ・昨年度は18ケースと今年度は5ケース程の依頼が小学校や中学校からあった。 ・校内安全体制の防災体制について。自主通学生に対しての通学途中での被災時の対応の指導についての詳細を知りたい。 ・自主通学に関する安全管理について不足している部分があるので精査し、通学経路の中で被災が起きた際に子どもたちがどのような行動ができていけるのか、どこかに逃げることができるのかについて知る機会になる指導できる場を検討している。 ・通学途中での災害発生時の対応について、発生した時間によって教員体制も異なるので色々なケースを想定しておく必要がある。現在、最寄り駅の崇禅寺駅と新大阪駅に分かれて、教員を配置すること考えている。今後、自主通学について届出制ではなく承認制にしていき、自主通学の安全性を高めていきたいと考えている。 ・協議終了。
<p>報告・藤本教務総務部長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教科用図書選定について。図書室入り口に採択された教科書を置いている。シラバスに沿った内容のものを選定している。副読本については、図書室にある本等使用しながら進めていく。次年度についての選定方法等につきましては、次回ご説明させていただきます。
<p>進行・北條教頭</p> <p>閉会・芥川校長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本日の議事の要旨につきましては公開となる。事前に各委員に内容の確認をさせていただきます。 ・年間予定として原則としては年間3回の開催。 ・次回第2回は進捗報告に対するご意見をいただく。 ・第3回は令和5年度及び令和6年度の学校経営計画へのご意見をいただく。学校教育診断票を児童生徒、保護者、教職員がほぼ共通した項目で評価したものを分析して学校自己評価を行う。 ・閉会の挨拶。